

# 梵珠ガイド会通信

2024 - 04 号  
2024年 06月25日  
自然ふれあい  
ボランティアガイド会

## ■ 古代・中世、梵珠周山周辺は北と南の文化が交錯する境界領域



◆ 史跡犬走須恵器窯跡



◆ 田と書かれている刻書

6月6日、五所川原市狼野長根楠美家住宅で、元東北中世考古学会会長の工藤清泰氏を講師に、梵珠歴史探訪の講演及び現地研修を開催しました。講師の工藤氏は、浪岡城跡・高屋敷館遺跡・五所川原須恵器窯跡・尻八城址など古代・中世の遺跡発掘を数多く手がけてきました。

はじめに、午前中、パワーポイントにより梵珠山周辺の古代から中世の遺跡を紹介。五所川原須恵器窯跡は北限の窯跡で遠く北海道まで供給されて

いた。主に中甕と長頸壺が多く酒とかを入れて運んだものではないか？といわれています。

この須恵器には、田・神・人などの刻書文字や記号が書かれているのが特徴です。

午後は、須恵器が展

示されている蔵に入り、発掘された須恵器を見学。その後、歩いて4・5分の前田野目犬走須恵器窯跡を見学する。今は土が埋め戻されているが、沈下して窯跡がかすかにわかる状態でした。

高屋敷館遺跡に移動し、工藤氏の案内で土塁にも上がるなどして説明を受けました。北には梵珠山を望む事ができ、11～12世紀の中世の古代環壕集落に居るような気持ちになりました。

このように梵珠山麓周辺には、9～11世紀の古代遺跡が濃密に分布し、梵珠山は古代から中世には北と南の文化が交錯する境界領域であった。エミシ社会に須恵器生産があるはずがないと言われていたが、五所川原須恵器の発見で、津軽や北日本の古代社会（エミシ社会）を根本から見直すきっかけとなった。



◆ 午前は座学



◆ 高屋敷館遺跡

## ■ チョウ類のトランセクト調査の実際 ～自然保護課主催ガイド研修～



◆イチモンジチョウ

6月16日、自然ふれあいセンターにおいて県自然保護課主催のボランティアガイド研修が開催されました。午前にはチョウ類を通して知る自然環境研修で、チョウ類に関心のあ

る一般の方も参加しての研修となりました。講師は中村康弘氏（NPO法人日本チョウ類保全協会事務局長）で、最初は座学、その後外で実際のチョウ類のトランセクト調査方法について学びました。この調査手法は、1973年、イギリスにおいて開発されたものです。実際にセンター前からキャンプ場、コウモリ小屋までを往復し、自分の居る位置の左右5m、高さ5m、前方5mの範囲にいるチョウ類の種類と個体数をカウントし、決められた野帳に記入していくものです。

実際に歩いてみると、ウスバシロチョウ、ヒメウラジャノメ、クロヒカゲ、イチモンジチョウなどを確認しました。ひらひらと飛び交う姿も特徴があるようですが、初心者には識別するのはちょっと難しいようです。回数を重ねて覚えていくしかないかもしれません。

「サイレント・アース」、昆虫たちの沈黙の春（著者 デイブ・グールソン）の本では、昆虫がいなければ、世界は成り立たないと。ここ100年足らずの間に昆虫の75%が減少したといわれている。チョウ類も、鳥や維管束植物と比較して、最も環境に左右されやすいという。なぜなら、生息地域が限定されていること。世代交代が早い。食草が決まっているなどから環境に最も左右されやすい。

そのチョウ類を決められた手法でモニタリング調査することで環境の変化を把握することが出来るというもの。当日出席したガイド会員の5人ほどこのチョウ類のトランセクト調査にエントリーする意向です。午後は、県警本部生活安全部地域課の担当者から、遭難者の救助につて、実際の映像等みながら講義を聴きました。



◆チョウ類現地調査

## ■ ガイド会活動日誌

月 日	活 動 内 容	担当ガイド
6月2日	センター主催 梵珠山横断トレッキング	講師：横山、木村・芳賀
6月6日	ガイド会自主研修「梵珠歴史探訪」	会長等8名
6月16日	自然保護課主催 ボランティアガイド研修	会員12名
6月23日	センター主催 松森山の花を訪ねて	横山・木村